

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2014年7月29日発行 第40号



スキマ☆夏祭り☆ナイト

今回のスキマ・ナイトは、夏休み企画です！
大人だってせっかくの夏の夜を楽しみましょう！
お好み焼き、焼きそば、焼き鳥、綿菓子…
ヨーヨー釣りに、ゲームも！！



そして…球体遊戯/トミーさんのコンタクトジャグリングが再び！
トミーさんのコンタクトジャグリングは、いくつもの玉や輪を体から離さず意のままに動かす神秘的なパフォーマンスです。
家族やお友達も誘って遊びに来てください☆
お手伝いして下さる方も大歓迎！！

日 時: 8月1日(金)18:00-20:30 ごろ
準備 16:00～
食事 18:00～
ジャグリング 19:00～

会 場: 日本自立生活センター事務所
松の間(自立支援事業所の1階)
駐車場 ほか
担 当: 横川



この日、東日本大震災の被害の大きかった宮城県南三陸町から、「関西☆なう」というプログラムで、小学生の当事者メンバーやスタッフの方が京都に来られます。
一緒にスキマ☆夏祭り☆ナイトで楽しみましょう♪

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当:横川

ご意見・企画のアイデアなど大歓迎！バックナンバーはホームページ↓で読むことができます。

TEL:075-682-7950 E-mail:jcil-kyoto@jcil.jp URL:<http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

4月から職員が2名増えました。さっそくご紹介したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

職員自己紹介

- ① なまえ ② JCIL との関わりはいつから？
- ③ きっかけは？ ④ どんな仕事をしていますか？
- ⑤ A: 大切にしていること B: これからしたいこと

- ① 岸本 依子 (きしもと よりこ)
- ② 去年から
- ③ 夏のキャンプに参加したこと。
秋には難病の緊急集会で発表したこと。
- ④ 周年記念事業のアンケート、キャンプの実行委員会
少し介助 など
- ⑤ A: いつまでも好奇心を持ち続けること
笑顔を心がけること
B: ドイツで何年か暮らすこと



居場所づくり勉強会 29 弾報告
～体調にあった食事を摂っていこう～

今回の勉強会では、体と食事の関係について勉強しました。食べ物には、体を冷やすもの、温めるもの、潤すものなどがあります。旬の食べ物を摂ることが理に適っているのだそうです。また、自分の体の声をよく聴いて、そのときの体が求めている食材を選ぶことも大切です。身近な食べ物にどんな効能があるのかを知ること、普段の元気な生活をつくっていくことができそうですね！参加した宇田隆さんの感想です。

6月3日、居場所づくり勉強会で、ヨガの講師もしている石田さんに薬膳の勉強会をしていただきました。一番初めは、漢方の色々な香辛料のお話を聞きました。実際に様々な香辛料のにおいをかぐこともできました。僕にとってはなんとも言えない臭いで苦手でした。

次に漢方の舌診をしました。石田さんに僕の舌を見てもらったら、舌の外側が歯の形にジグザグになっていてそれは体が水を貯えすぎて、むくんでいるからだと言われました。むくまないように気を付けます。

石田さんから食べ物と気についての色々なお話がありました。僕は甘いもの、チョコレートなどが好きですが、甘いものを食べ過ぎると体を冷やし、内臓に負担があるらしいです。けれどいいところもあって、甘いものは気分がすっきりする役割もあるので適度に食べられるようにしたいと思います。今回からだベースの勉強会でまなんだことを活かし、気をめぐる食生活を心がけたいと思います。

(宇田隆)

Art Festa 2014
未来に繋ぐ

障害のある人やその関係者の芸術作品展を行います。工芸、絵画、書、陶芸、写真など、一人一人の思いが詰まった作品が集まりました。ぜひご覧ください。

とき: 2014年8月23日(土)～25日(月)

ところ: 京都市地域・多文化交流

ネットワークセンター

問い合わせ:

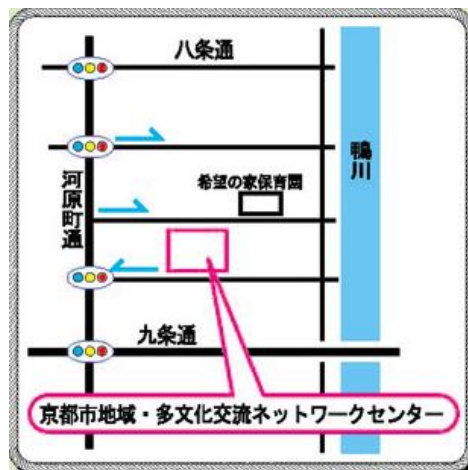
日本自立生活センターワークス共同作業所

アートフェスタ係 担当 大崎雅彦

TEL: 075-682-3201 FAX: 075-682-3330

E-mail: saba@mesiawars.ne.jp

主催: JCIL・WARKS 周年記念プロジェクト



総合支援法に変わったよ！ えっ、ほんま？ Part35

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



精神病院に長期入院してはる人たちの、
地域移行の問題ってどうなったん？

「条件付きの容認」？

そうなんや。けど、「条件付き」といっても、結局
同じ病院の敷地内なんやろ？ それで退院したこと
にされてしまうわけやんな。

そうやんなあ。でも、病院から出るのが怖い、
心細い、という人もいはるんかなあ。

ほんまやね。長期入院させられてきた人がたく
さんいはるんでしょ？ 大きな社会問題。

うわ〜。病棟転換型なんて考えてる場合じゃない
な。地域で、自由に、人間らしく暮らせるための
支援を考えていかんとあかんやんね。

そやなあ。いい地域をつくっていくことは
私たちの課題でもあるね。

障害者制度改革について

勉強中のタクオさん

小難しいこともやさしく(?) 解説



病棟転換型居住施設の問題やね。

7月1日に、厚労省内にもうけられた検討会議の報告
書がまとめられたよ。結論は、「条件付きの容認」。

うん。つまり、病棟転換型居住施設の話は、このまま進
めましょう。でも、外出の自由を保障する、病院と居住施
設は明確に区別する、あくまで地域での暮らしに向けたス
テップとして位置づける、などの条件をもうけたわけ。

うん。病棟から病棟への移動で、退院。地域の人たちの顔は
見えないわけだ。そんなの退院でも、地域移行でもないよね。

確かに、長いこと病院に閉じこめられてきて、これまで何
度退院したいといっても、お医者さんから、無理、受け入
れてもらえないよ、とか言われ続けて、パワーを喪失させ
られてる状態もあると思う。でも、だからこそ、小手先の
病院経営の維持の話でなく、ほんとにみなが地域で暮ら
していける支援の体制を早急につくっていかないといいな
いんだ。

うん。実際に、厚労省の調査でも、1年以上の長期入院し
ている人たちの7割強が「退院したい」と答えている。退
院した人たちの聞き取りでは、退院してよかったことの理
由として「自由がある」とこたえた人が6割。

そうだね。今回報告書はまとめられたけど、制度の具体的
な部分についてはこれから厚労省が詰めていくことにな
る。まだきっちりと反対の声を上げ続けることが大切だよ。

うん。ところで、話し変わって、去年話していた、新たな難病対策の法
案だけど、この前の5月に、「難病医療法」として国会で成立したよ。基
本は、医療費助成の対象範囲を広げて(56→300疾患)、でも対象者
みんなに自己負担もそれなりに求める、という、広く薄くの内容。今、
制度の細かい点でパブコメ募集してるので、それも見てね。
→「難病の患者に対する医療等に関する法律施行令」で検索。

介助者として働く人を

急募

女性介助者

どんな障害であっても私たちは
地域で暮らしたいと思っています



私たちの生活を一緒に支えてくれる
人を探しています



女性の介助者がとても
少ない状況です。
関心のある方へのお声かけ、
ご紹介をお願いします！
ビラの設置やポスターの掲示
にもご協力くだされば
ありがたいです。

◇性別、年齢、経験、国籍等は問いません

◇有資格者（介護福祉士・ヘルパー・重度訪問介護従事者等）も歓迎

◇勤務地・勤務時間応相談

◇時給 900 円以上・有資格者 1100 円以上
(資格取得のための重度訪問介護従業者養成研修あり)

☆連絡先：日本自立生活センター 自立支援事業所

☆住所：京都市南区東九条松田町62

☆URL <http://www.jcil.jp>

☆電話：075-682-7950 (担当：小泉)

☆E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp

ご連絡お待ちしております！